

社内報で連携強化

とらつく 近

畿

大阪



近畿の運送会社

士気高揚・業務改善に

アナログまだまだ健在

【大阪労働集約型産業である運送業では、従業員一人ひとりの力を最大限に発揮させるため社内各部署の緊密な連携とチームワークの強化が欠かせない。工夫を凝らした社内報をコミュニケーションツールとして活用することで、従業員の士気高揚や業務改善につながっている運送会社に話を聞いた。小莫史和

湖東物流(芦田敏雄社長、発21)を創刊。以来、10年、滋賀県近江八幡市)では、以上にわたり毎年1、4、7、10月に発行している。1994年に社内報「淡海」

A4判4〜6ページで、経営トップのメッセージや荷主関係者の寄稿掲載のほか、従業員が持ち回りて各自の趣味や家庭の出来事を紹介。真夏の快眠術といった季節のトピック掲載も健康管理や安全に一役買う。様々な工夫を凝らした社内報で連帯感や輸送品質アップに役立てる。



コミュニケーションペーパー」としている。外村物流運輸(外村善一社長、東近江市)は、「同僚の活躍や横顔が見える」と、手づくり社内報「SR

同社では、「普段は顔を合わせることのない従業員同士の相互理解と、モチベーションアップに役立っている。なごはならない

C」が従業員に好評だ。シラセリティー(誠意)、リライアンス(信頼)、コミュニケーション(意思疎通)の頭文字を取ったもので、「顧客の信頼を獲得するため、誠意をもって業務に当たる」ことができるよう、全社員の意思疎通を図る」との意味が込められている。03年4月に創刊。B4判2〜4ページ。新年の1月、年度始めの4月といった節目など、毎年3、4回のペー

スで発行する。カラー写真を多く使っている。外村社長は「365日、24時間稼働の食品輸送がメインで、北陸地方にも拠点を一箇所に集めるため、全社員が一堂に会することは難しい。SRCは従業員の相互理解に大いに役立っている」と話す。従業員のコミュニケーションだけでなく、業務改善に社内報を積極的に活用する運送会社もある。

越野運送越野泰弘社長、大阪市都島区)は、08年から社内報「越野運送営業部通信」を毎月発行。A4判8〜10ページ、オールカラーで、写真入りで新入社員やサークルの活動を紹介し、新たに受注した業務の内容なども掲載する。

「事故情報や燃費成績も、毎月全旨員に公開している。全ての情報を共有することで、品質管理の国際規格ISO9001のマニュアル徹底にも役立っている」と越野社長。

運送会社のドライバーの多くは、いったん社外に出ると一人で業務をこなすことが多い上、勤務時間もまちまちになりがちだ。一緒に働く仲間と情報を共有することは連帯感のアップにも役立つ。業務に関する情報も役立ち、業務に関する情報も役立つ。業務に関する情報も役立つ。